

青森県経済統計報告

平成 20 年 5 月 8 日
企画政策部統計分析課

1 青森県の推計人口（平成 20 年 4 月 1 日現在）..... 1

県人口	1,398,130 人（対前月 6,332 人 減少）
自然動態	483 人減少（出生者数 844 人、死亡者数 1,327 人）
社会動態	5,849 人減少（転入者数 4,045 人、転出者数 9,894 人）

2 本県の経済動向

（1）経済概況

本県経済は、生産面は堅調なもの、消費面の弱さが続いている。

（2）主要経済指標の動向

- (2-1) 製造業の生産動向 平成 20 年 2 月の青森県鉱工業生産指数(平成 12 年 = 100)は、季節調整済指数が 101.1 で、前月比 2.2%の低下となり、3ヶ月ぶりに前月を下回った。また、原指数は 94.7 で、前年同月比 8.5%の上昇となり、5ヶ月連続で前年同月を上回った。 ... 2
- (2-2) 雇用情勢 平成 20 年 2 月の定期給与は 230,695 円で前年同月比 2.5%増となった。総実労働時間は 154.8 時間で前年同月比 0.5%増、所定外労働時間は 9.8 時間で前年と同水準となった。平成 20 年 3 月の有効求人倍率（季節調整値）は 0.48 倍で、前月比 0.01 ポイント上回った。 ... 3
- (2-3) 物価 平成 20 年 3 月の青森市消費者物価指数（平成 17 年=100）は、総合指数が 101.3 となり、前月と比べ 0.5%の上昇、前年同月と比べ 2.0%の上昇となった。 ... 4
- (2-4) 個人消費 平成 20 年 2 月の大型小売店販売額は、全店舗ベースが 134 億 4 千 7 百万円 で前年同月比 0.1%減と 1 2 ヶ月連続で減少、既存店ベースでは 2.0%減と 2 7 ヶ月連続で減少となった。平成 20 年 3 月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は 6,865 台で、前年同月比 5.3%の減となり、7ヶ月連続で前年を下回った。 ... 5
- (2-5) 住宅建設 平成 20 年 3 月の新設住宅着工戸数は 311 戸で、前年同月比 24.5%減となり、4ヶ月ぶりに前年を下回った。 ... 6
- (2-6) 電力使用量 平成 20 年 3 月の大口電力使用量は 2 億 2,071 万 kWh で、前年同月比 9.8%減となり、5ヶ月連続で前年を下回った。 ... 6

（3）景気動向指数（平成 20 年 2 月分）..... 7

先行指数	66.7%（3か月ぶりに50%を上回った）
一致指数	66.7%（4か月ぶりに50%を上回った）
遅行指数	50.0%（3か月連続で50%となった）

（4）青森県景気ウォッチャー調査（平成 20 年 4 月期）..... 8

3ヶ月前と比べた景気の現状判断DI	29.5（前期比0.6ポイント減、3期連続で50を下回る）
3ヶ月後の景気の先行き判断DI	32.1（前期比1.0ポイント減、3期連続で50を下回る）

1 青森県の推計人口(平成20年4月1日現在)

【概況】

平成20年4月1日現在の本県推計人口は、1,398,130人で、前月に比べ6,332人の減少となった。

○自然動態

出生者数が844人、死亡者数が1,327人で、483人の減少となった。

○社会動態

転入者数が4,045人、転出者数が9,894人で、5,849人の減少となった。

総人口の推移

(単位:人)

	総数			対前月増減率	増減数	自然増減数	出生者数	死亡者数	社会増減数	県外からの転入者数	県外への転出者数
	男	女	女								
昭45.10.1	1,427,520	685,477	742,043	-	10,929	-	-	-	-	-	-
50.10.1	1,468,646	707,232	761,414	-	41,126	-	-	-	-	-	-
55.10.1	1,523,907	735,444	788,463	-	55,261	-	-	-	-	-	-
60.10.1	1,524,448	731,439	793,009	-	541	-	-	-	-	-	-
平2.10.1	1,482,873	704,758	778,115	-	-41,575	-	-	-	-	-	-
7.10.1	1,481,663	704,189	777,474	-	-1,210	-	-	-	-	-	-
12.10.1	1,475,728	702,573	773,155	-	-5,935	-	-	-	-	-	-
17.10.1	1,436,657	679,077	757,580	-	-39,071	-	-	-	-	-	-
19.4.1	1,412,767	665,701	747,066	-0.474%	-6,730	-465	831	1,296	-6,265	3,722	9,987
19.5.1	1,412,047	665,362	746,685	-0.051%	-720	-474	794	1,268	-246	4,208	4,454
19.6.1	1,411,117	664,842	746,275	-0.066%	-930	-310	1,007	1,317	-620	1,596	2,216
19.7.1	1,410,247	664,306	745,941	-0.062%	-870	-361	812	1,173	-509	1,233	1,742
19.8.1	1,409,665	664,003	745,662	-0.041%	-582	-267	948	1,215	-315	1,939	2,254
19.9.1	1,409,176	663,804	745,372	-0.035%	-489	-414	850	1,264	-75	2,220	2,295
19.10.1	1,408,589	663,460	745,129	-0.042%	-587	-277	765	1,042	-310	1,710	2,020
19.11.1	1,408,039	663,193	744,846	-0.039%	-550	-321	982	1,303	-229	1,743	1,972
19.12.1	1,407,522	662,925	744,597	-0.037%	-517	-420	826	1,246	-97	1,309	1,406
20.1.1	1,406,738	662,556	744,182	-0.056%	-784	-534	769	1,303	-250	1,162	1,412
20.2.1	1,405,587	661,894	743,693	-0.082%	-1,151	-691	838	1,529	-460	1,126	1,586
20.3.1	1,404,462	661,311	743,151	-0.080%	-1,125	-512	795	1,307	-613	1,146	1,759
20.4.1	1,398,130	657,775	740,355	-0.451%	-6,332	-483	844	1,327	-5,849	4,045	9,894

3月中の人口動態の推移

(単位:人)

年月	平10.3	11.3	12.3	13.3	14.3	15.3	16.3	17.3	18.3	19.3	20.3	
自然動態	出生者数	1,150	1,152	1,007	989	997	909	1,036	854	925	831	844
	死亡者数	1,245	1,189	1,207	1,127	1,141	1,262	1,279	1,522	1,318	1,296	1,327
	自然増減数	-95	-37	-200	-138	-144	-353	-243	-668	-393	-465	-483
社会動態	県外からの転入者数	5,494	5,445	5,133	4,764	4,170	4,746	4,532	4,133	4,191	3,722	4,045
	県外への転出者数	11,750	11,178	11,241	10,284	10,224	10,366	9,993	10,234	9,790	9,987	9,894
	社会増減数	-6,256	-5,733	-6,108	-5,520	-6,054	-5,620	-5,461	-6,101	-5,599	-6,265	-5,849

1 昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17年は国勢調査人口(確定値)。

2 増減数は、昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17年が前回国勢調査、その他が前月推計人口に対するものである。

3 算出方法

県の推計人口 = 前月の人口 + 自然増減数(出生者数 - 死亡者数) + 社会増減数(県外からの転入者数 - 県外への転出者数)

4 県の推計人口には、県内市町村間の移動者数を含んでいない為、各市町村の推計人口の総計とは一致しない。

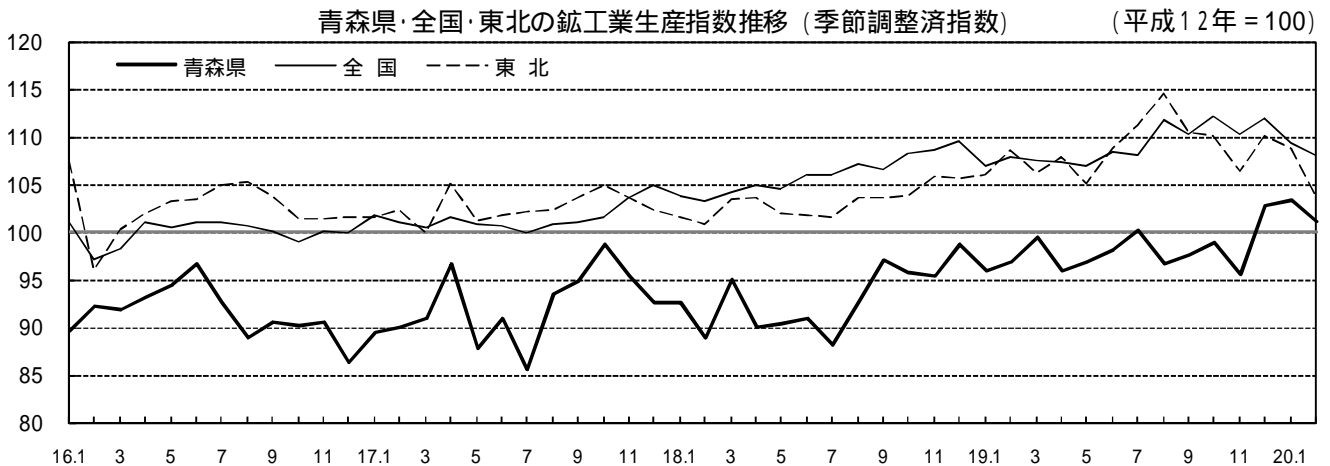
2 本県の経済動向

(2) 主要経済指標の動向

(2-1) 製造業の生産

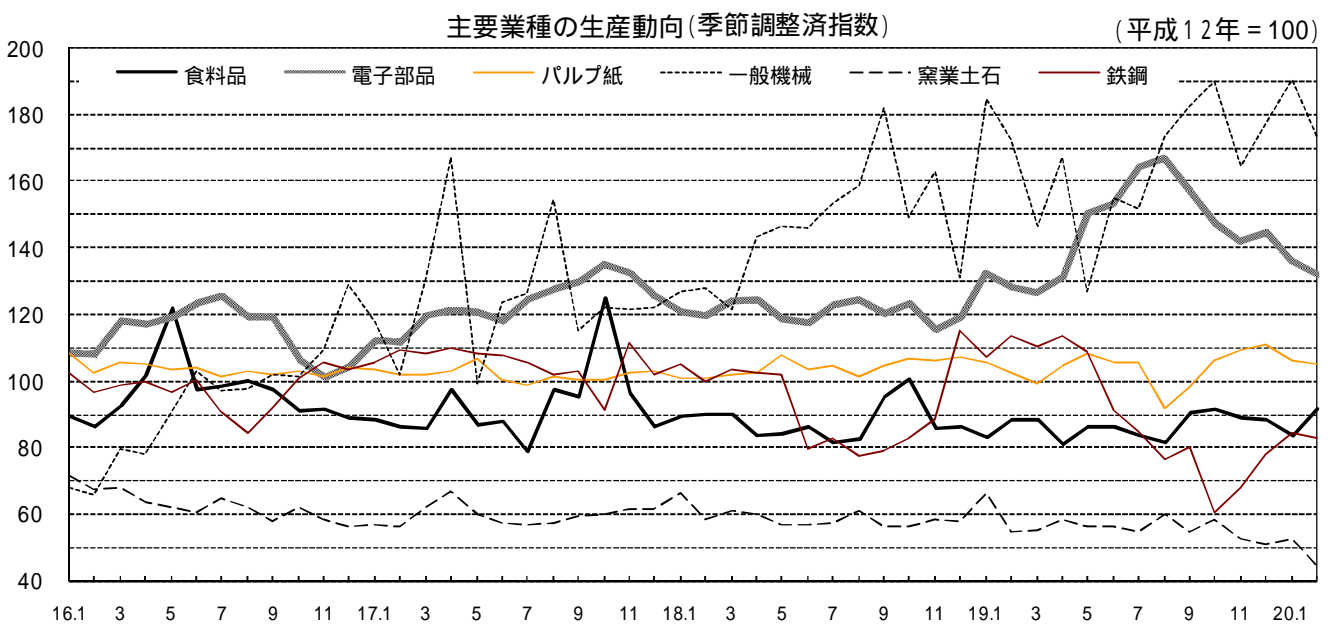
平成20年2月の青森県鉱工業生産指数(平成12年=100)は、季節調整済指数が101.1で、前月比2.2%の低下となり、3ヶ月ぶりに前月を下回った。また、原指数は94.7で、前年同月比8.5%の上昇となり、5ヶ月連続で前年同月を上回った。

季節調整済指数で前月からの動きをみると、食料品工業、その他製品工業、石油・石炭製品工業などが上昇に寄与した一方、化学工業、一般機械工業、電気機械工業などが低下し、鉱工業全体では2.2%の低下となった。



業種別動向 (前月比) 鉱工業全体 -2.2%

プラス			マイナス		
業種	前月比(%)	寄与率(%)	業種	前月比(%)	寄与率(%)
食料品工業	9.1	49.1	化学工業	-39.2	-62.7
その他製品工業	106.3	16.1	一般機械工業	-9.0	-25.7
石油・石炭製品工業	82.8	2.5	電気機械工業	-8.0	-25.1
家具工業	57.7	1.8	輸送機械工業	-25.5	-14.6
皮革製品工業	15.1	0.2	電子部品・デバイス工業	-3.1	-12.4



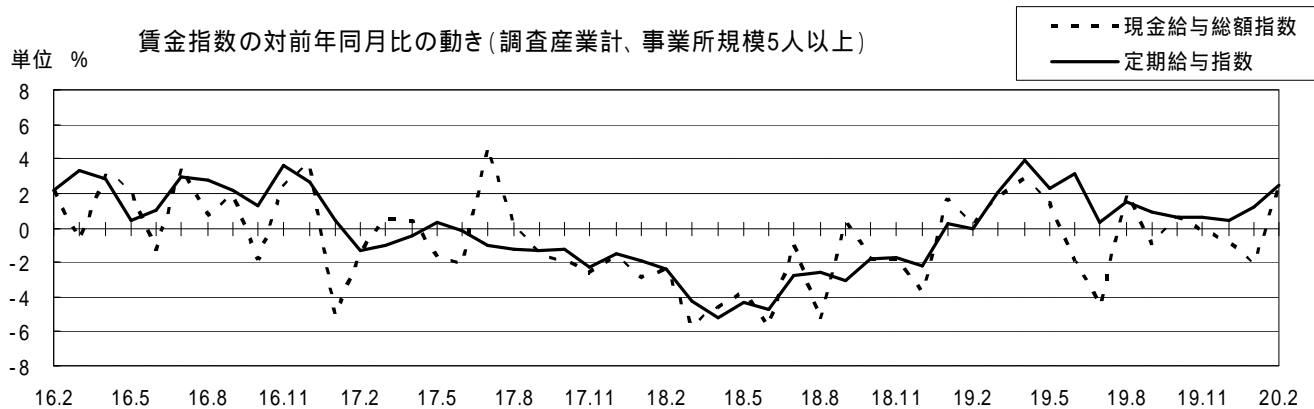
資料：県統計分析課「青森県鉱工業生産指数(速報)」

(2-2) 雇用情勢

平成20年2月の定期給与は230,695円で定期給与指数(平成17年=100)では100.2となり、前年同月比2.5%増(現金給与総額231,190円、現金給与総額指数84.8、前年同月比2.5%増)となった。実額で比較した定期給与の全国対比は85.1となった。

総実労働時間は154.8時間で、総実労働時間指数は97.2となり、前年同月比0.5%増となった。このうち、所定外労働時間は9.8時間で、所定外労働時間指数では99.0となり、前年と同水準となった。

平成20年3月の有効求人倍率(季節調整値)は0.48倍で、前月比0.01ポイント上回った。



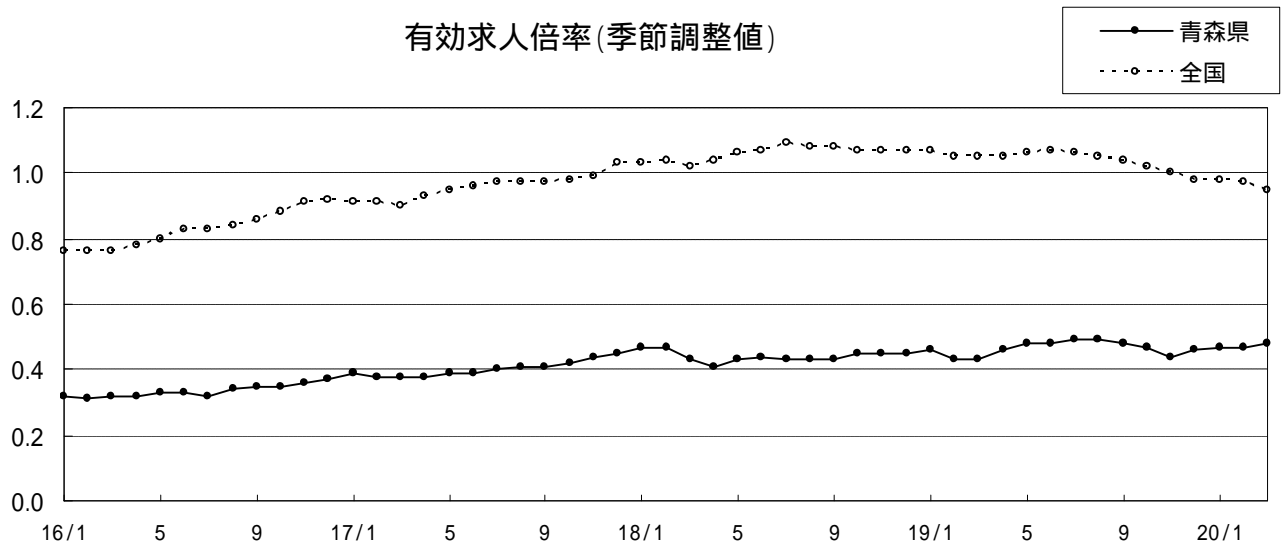
賃金及び労働時間の動き(調査産業計、事業所規模5人以上)

	実数		指数(H17=100)		対前年同月増減率	
	県	全国	県	全国	県	全国
現金給与総額	231,190 円	274,803 円	84.8	82.9	2.5 %	1.5 %
定期給与	230,695 円	270,994 円	100.2	100.3	2.5 %	1.2 %
特別給与	495 円	3,809 円				
総実労働時間	154.8 時間	151.0 時間	97.2	100.1	0.5 %	1.6 %
所定内労働時間	145.0 時間	139.9 時間	97.1	99.9	0.6 %	1.7 %
所定外労働時間	9.8 時間	11.1 時間	99.0	104.7	0.0 %	1.8 %

(注)1.定期給与とは「きまって支給する給与」のことである。

2.前年同月比は指数によって算出している。

資料:県統計分析課「毎月勤労統計調査結果(速報)」



資料:青森労働局職業安定部職業安定課「職業安定業務取扱月報」

(2-3) 物価

平成20年3月の青森市消費者物価指数(平成17年=100)は、総合指数が101.3となり、前月と比べ0.5%の上昇、前年同月と比べ2.0%の上昇となった。

生鮮食品を除く総合指数は101.3となり、前月と比べ0.7%の上昇、前年同月と比べ2.3%の上昇となった。

食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数は98.0となり、前月と比べ0.5%の上昇、前年同月と比べ0.1%の下落となった。

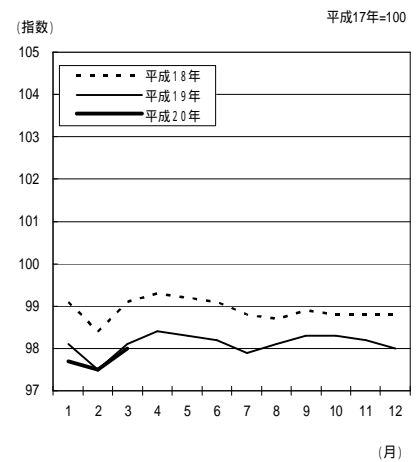
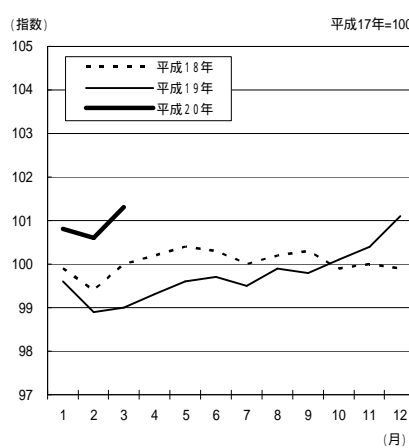
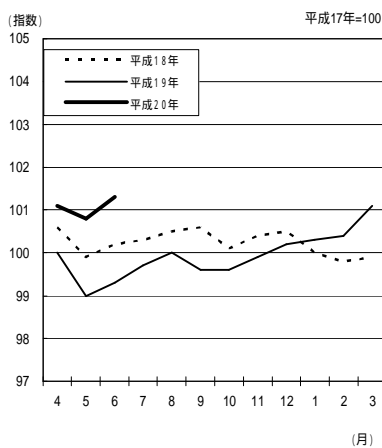
総合指数が前月と比べ0.5%の上昇となった内訳を寄与度でみると、被服及び履物、交通・通信などの上昇が要因となっている。

総合指数の前年同月比が2.0%の上昇となった内訳を寄与度でみると、光熱・水道、交通・通信などの上昇が要因となっている。

図3 食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数の動き

図1 総合指数の動き

図2 生鮮食品を除く総合指数の動き



10大費目指数の動き

(平成17年=100)

	総合	生鮮食品を除く総合	持家の 帰属家賃を除く総合	食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合	食料	生鮮食品	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被服及び履物	保健医療	交通・通信	教育	教娯	養楽	諸雑費
当月指数	101.3	101.3	101.8	98.0	101.0	102.2	99.2	116.6	95.3	95.0	100.0	103.7	101.2	94.1	101.3	
前月比(%)	0.5	0.7	0.6	0.5	0.1	1.5	0.0	0.3	1.2	6.1	0.2	1.5	0.0	0.2	0.2	
寄与度	0.50	0.66	0.50	0.32	0.03	0.09	0.00	0.03	0.03	0.22	0.01	0.16	0.00	0.02	0.01	
前年同月比(%)	2.0	2.3	2.4	0.1	1.8	0.8	0.5	11.5	3.4	1.1	0.1	5.0	0.6	3.8	0.9	
寄与度	2.00	2.19	2.03	0.06	0.52	0.05	0.10	1.20	0.10	0.05	0.00	0.53	0.02	0.38	0.05	

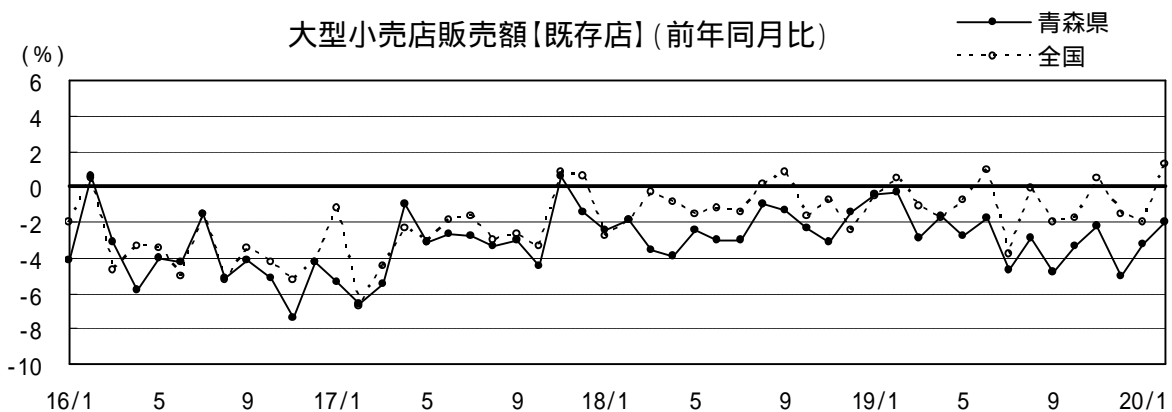
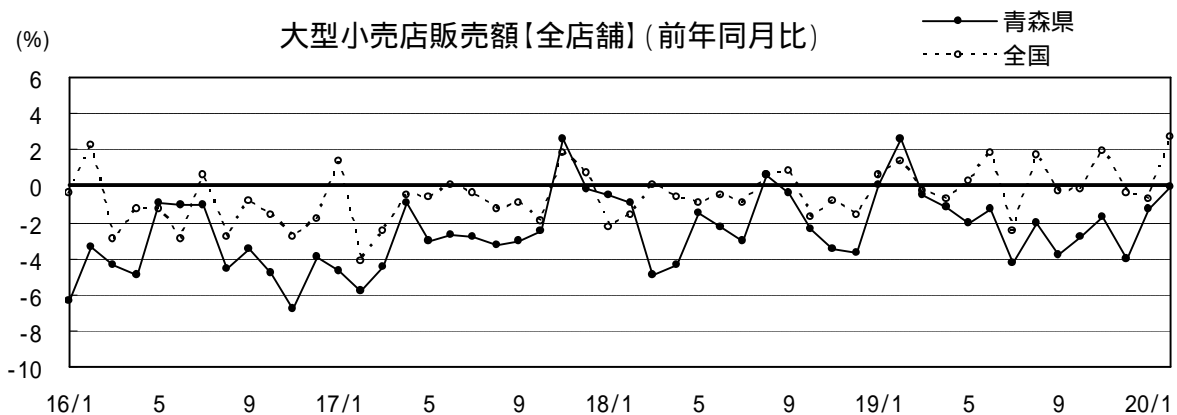
資料：県統計分析課「消費者物価指数月報」

寄与度とは、ある費目の指数の変動が、総合指数の変化率のうち何ポイント寄与したかを示したものであり、全費目の寄与度を合計すると、総合指数の変化率に一致する。

(2-4) 個人消費

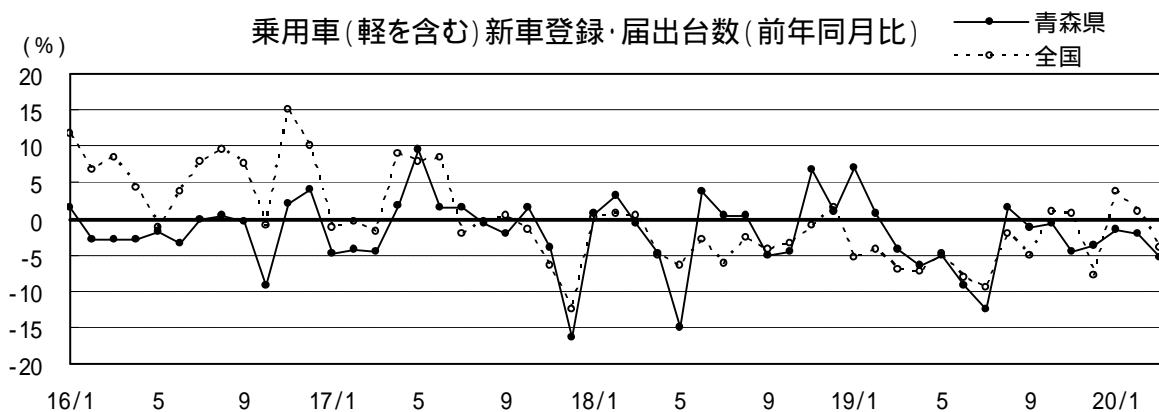
平成20年2月の大型小売店販売額は、全店舗ベースが134億4千7百万円で前年同月比0.1%減と12ヶ月連続で減少、既存店ベースでは2.0%減と27ヶ月連続で減少となった。百貨店は低温の影響等から春物衣料が振るわず、また、スーパーは生鮮食品が振るわなかったことなどから、それぞれ12ヶ月連続、13ヶ月連続で前年を下回った。

平成20年3月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は6,865台で、前年同月比5.3%の減となり、7ヶ月連続で前年を下回った。普通車が9ヶ月連続で増加したものの、小型車が3ヶ月連続で、軽自動車が2ヶ月連続でそれぞれ減少したことによる。



資料：東北経済産業局「東北地域大型小売店販売額動向」

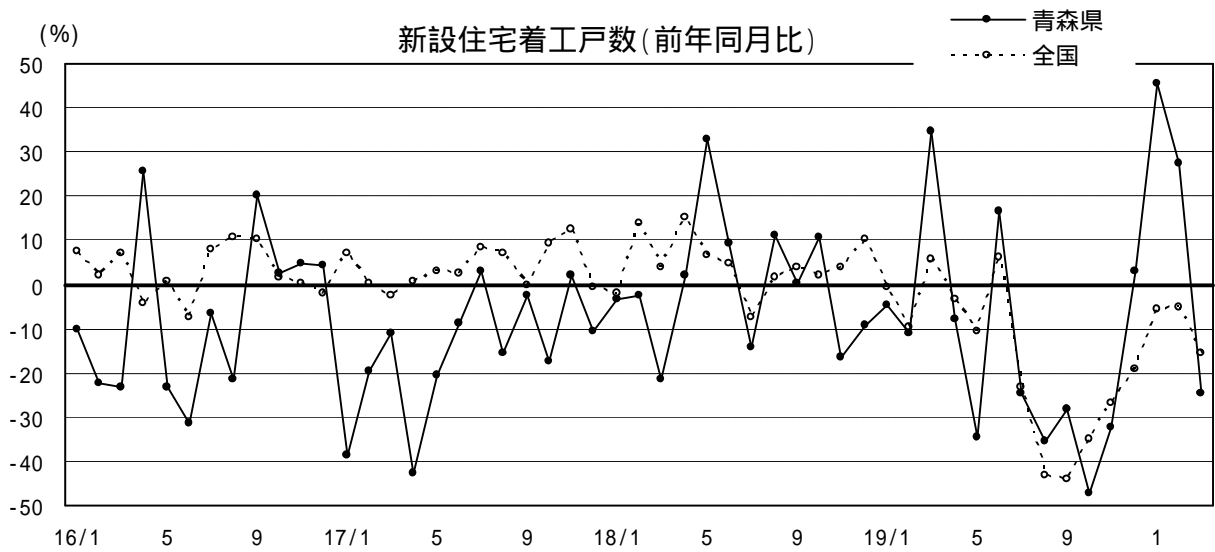
* 大型小売店は従業員が50人以上で売場面積が1,500平方メートル以上の商店をいう。そのうち、既存店とは、当月及び前年同月とも調査の対象となっている商店をいう。



資料：青森県自動車会議所「車種別登録・届出台数」、日本自動車販売協会連合会「自動車統計データ」

(2 - 5) 住宅建設

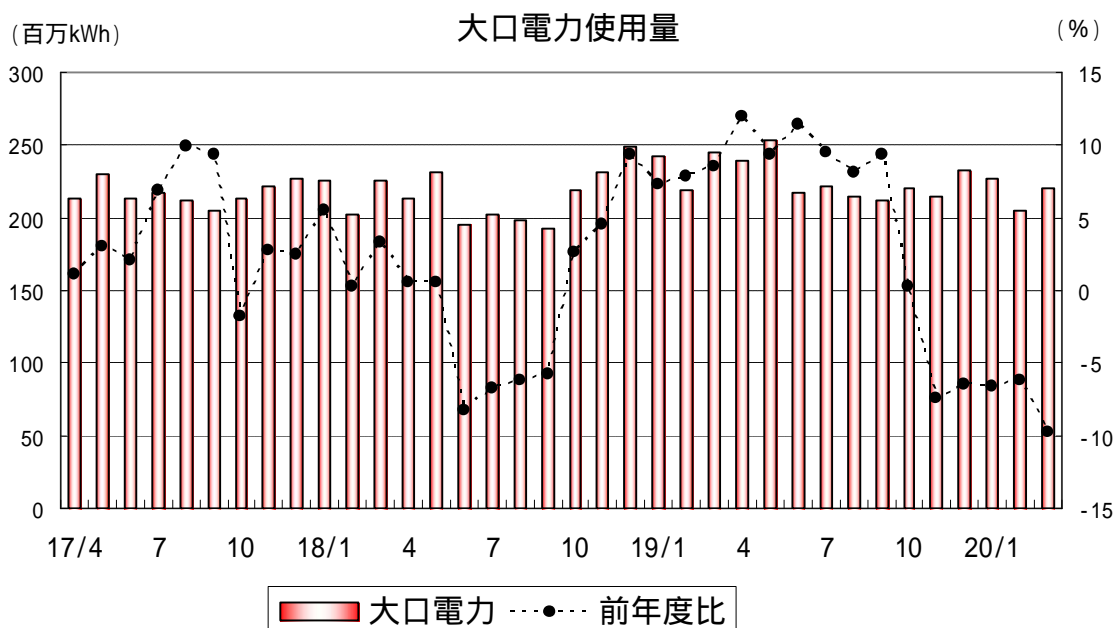
平成20年3月の新設住宅着工戸数は311戸で、前年同月比24.5%減となり、4ヶ月ぶりに前年を下回った。持家、貸家、分譲のいずれも減少したことによる。



資料：県建築住宅課「建築着工統計」、国土交通省「建設統計月報」

(2 - 6) 電力使用量

平成20年3月の大口電力使用量は2億2,071万kWhで、前年同月比9.8%減となり、5ヶ月連続で前年を下回った。「機械」などが稼働増となったものの、「鉄鋼」などが稼働減となったことによる。



資料：東北電力(株)青森支店「電力需要実績」

(3) 青森県景気動向指数

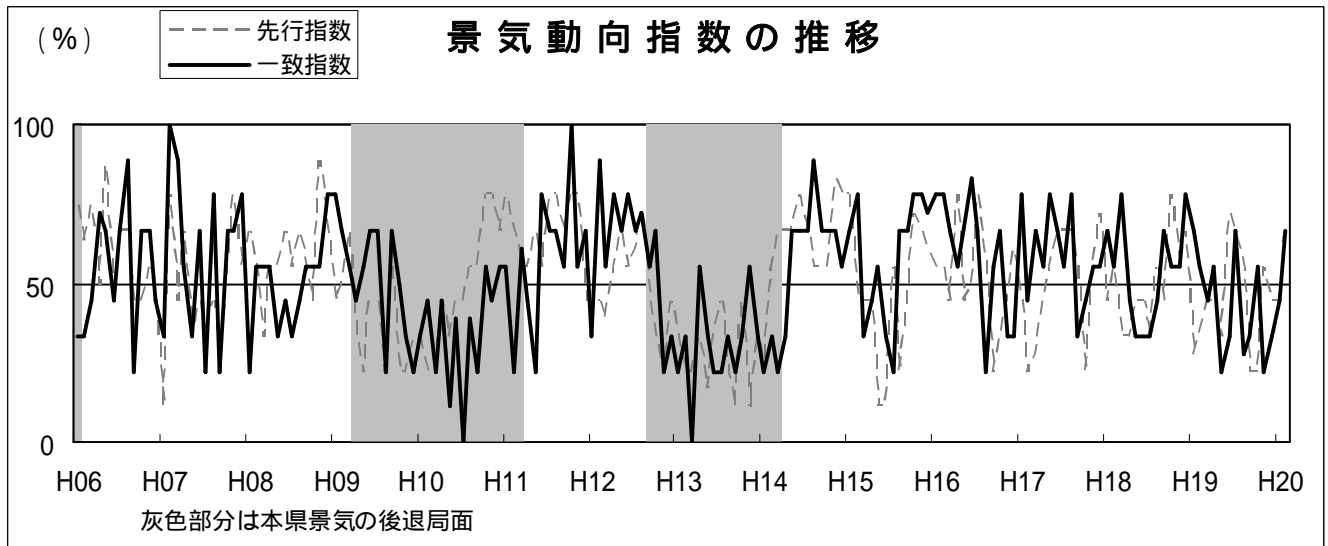
平成20年2月の青森県景気動向指数は、先行指数66.7%、一致指数66.7%、遅行指数50.0%となった。

先行指数は、3か月ぶりに50%を上回った。

一致指数は、4か月ぶりに50%を上回った。

遅行指数は、3か月連続で50%となった。

2月の一致指数は、消費、労働関連等の指標がプラスとなったことから、50%を上回った。



個別系列の動き（各指標は季節調整等を行い、5ヶ月前と比較しています）

プラスの指標		マイナスの指標	
先行系列（9指標中6指標がプラス）			
生産財生産指数	2か月連続	乗用車新車登録届出台数	2か月連続
新規求人倍率（全数）	7か月ぶり	企業倒産負債額	2か月連続
所定外労働時間指数	2か月連続	中小企業景況DI	4か月連続
入職率（製造業）	2か月連続		
新設住宅着工床面積	3か月連続		
建築着工床面積	2か月ぶり		
一致系列（9指標中6指標がプラス）			
大型小売店販売額（既存店）	10か月ぶり	大口電力使用量	10か月連続
鉱工業生産指数	3か月連続	有効求人数（全数）	4か月連続
電気機械生産指数	6か月連続	日銀券月中発行高	2か月連続
総実労働時間数（全産業）	2か月ぶり		
海上出入貨物量（八戸港）	2か月連続		
東北自動車道IC利用台数	2か月連続		
遅行系列（6指標中2指標がプラス）			
勤労者世帯家計消費支出（実質）	2か月連続	常用雇用指数（製造業）	6か月連続
1人平均月間現金給与総額	2か月連続	単位労働コスト（製造業）	2か月連続
青森市消費者物価指数（帰属家賃除く）	5か月連続	輸入通関実績（八戸港）	2か月連続

資料：県統計分析課「青森県景気動向指数月報」

(4) 青森県景気ウォッチャー調査

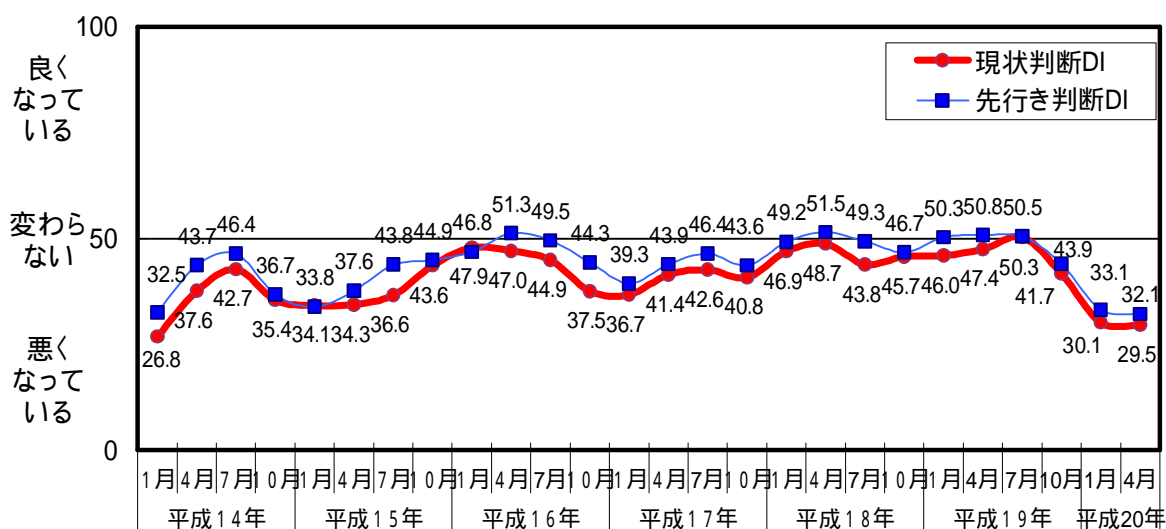
平成20年4月期の景気ウォッチャー調査は、4月1日～4月21日を調査期間とし、回答率は99%となった。

3か月前と比べた景気の現状判断DIは29.5で、前期調査を0.6ポイント下回った。

3か月後の景気の先行き判断DIは32.1で、前期調査を1.0ポイント下回った。

4月期は、景気の現状判断DI、先行き判断DI共に前期を下回り、3期連続で横ばいを示す50を下回った。

景気現状判断DI・先行き判断DIの推移



3か月前と比べた景気の現状判断

動	<p>前期調査と比べると、「変わらない」が5.1ポイント増加し、「やや良くなっている」が4.0ポイント減少したことにより、全体では0.6ポイント減の29.5となり、3期連続で横ばいを示す50を下回った。</p>
向	<p>判断理由をみると、一部において前年ベースよりややアップしたという声がみられるが、エネルギー・購入諸資材価格上昇によるコスト上昇分の製品価格への転嫁が思うように進まないことや食料品等の値上がりが多く購買力が低下しているという意見があった。</p> <p>前期調査に比べて、津軽、下北地区においてポイントが増加したが、東青、県南地区ではポイントが減少し、全地区において横ばいを示す50を下回った。</p>

3か月後の景気の先行き判断

動	<p>前期調査と比べると、「変わらない」が3.0ポイント減少し、「悪くなる」が3.0ポイント増加したことにより、全体では前期を1.0ポイント下回る32.1となり、3期連続で横ばいを示す50を下回った。</p>
向	<p>判断理由を見ると、値上りした灯油を消費するシーズンを越したことや観光シーズンの到来に期待する声がみられるが、景気が回復する要素が見当たらないという意見や、更なる物価上昇への懸念や先行き不安により消費マインドが上がらないという声がみられた。</p> <p>前期調査に比べて、津軽、県南地区においてポイントが増加したが、東青、下北地区ではポイントが減少し、全地区において横ばいを示す50を下回った。</p>

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」

(参考)景気ウォッチャーによる景気判断理由(一部)

3か月前と比べた景気の現状判断理由

前年ベースよりややアップ。春物好調に推移するも4月以降各種値上げの影響心配。(百貨店=県南)

観光地としては、客数が増え始め、にぎやかになってきてはいるが、食料品やその他の商品の値上がが多く、購買力が低下している気がする。(観光名所等=東青)

ガソリン価格の一時的値下がりがあったものの、食品をはじめとする生活必需品価格の値上がり、社会保険料問題も含めて生活防衛力は強く、ファッション高額品の販売数量は減少傾向。(百貨店=東青)

各種会合の少人数化、予算(客単価)の低下が多く見られます。顧客の利用頻度が落ちている(同業者からの見解)。(都市型ホテル=津軽)

食料品等、身のまわりの物が値上がりしている中、土木・建築関係の方は一同に仕事が無いと言います。所得が増えないのに値上がりばかりでは景気は下がる一方だと伺います。(一般小売店=下北)

エネルギー及び購入諸資材の価格が上昇を続ける中、コスト上昇分の製品価格への転嫁が思う様に進まない状況であるため。(紙・パルプ製造=県南)

弊社では一般家庭においての家事サービスや介護サービスの人材の派遣も行っているが、やや件数が少なくなっている。(人材派遣=津軽)

×灯油、ガソリンの値上り、食料品の値上り、生活防衛のため、安い店・ディスカウントストア等へ客足が向いている。(コンビニ=下北)

×市内トップクラスの建設会社の自己破産による連鎖倒産が懸念されるほか、地場企業に元気がない。(新聞社求人広告=東青)

3ヵ月後の景気の先行き判断理由

値上りした灯油を消費するシーズンを越した事と、ガソリンが一時的ではあろうが値下りした事の2つで多少なりともプラス材料となるのでは。(一般小売店=県南)

観光シーズンとなり、動きが出ると思うが、コストが上がる一方、宿泊単価が下降傾向にある為、何とも言えない。今、問題になっているガソリン税の動きで客足が左右されそうです。(観光型ホテル・旅館=東青)

春の気候で多少気分的には明るくなって来ているが、物価等の上昇で、その気分を吸収している様である。(住宅建設販売=津軽)

商店街を取り巻く環境はより厳しさを増す事が想定されることから、むしろ下降線をたどるものと推察される。特に物価の高騰は消費者の買物控にさらに拍車がかかると思われる。(商店街=津軽)

いろんな意味で将来に不安で、消費マインドは上がらないと思われる。(百貨店=県南)

道路特定財源がどの様になるのか、暫定税率(ガソリン税)が復活するのか流動的状況の中で景気が良くなる要素がみあたらない。(設計事務所=津軽)

これから徐々に値上げという事になり、消費もおさえられるだろうから。(飲料品製造=県南)

×例年であれば5～6月の観光予約が多く入る予定が今年はかなり少なく、全国的な景気の落込みと思われれます。(タクシー=下北)

×景気回復要素が見あたらない。(求人情報誌=東青)

記号の意味: 良くなっている、やや良くなっている、変わらない、やや悪くなっている、×悪くなっている

資料: 県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」